

令和5年度

「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」 中間報告

一般社団法人スナフキン・アンサンブル



事業実施の背景①

当法人の主事業について

年齢・性別や障害の有無を問わず「働きづらさを抱えるすべての方々」を対象とする「陸前高田市ユニバーサル就労支援センター」を運営。主に、引きこもりや精神疾患のある方等からの相談に応じ、就労や社会参加の機会創出に取り組んでいる。

就労支援での支援コンセプトについて

就労のみをゴールとは捉えず、その人が頼れる相手、またはその人を頼ってくれる相手を増やし、人間関係を広げることを支援の目標としており、「関係性の支援」をコンセプトに掲げている。

事業実施の背景②

事業実施体制：2021年度

事業主体	株式会社日経BP
連携協議会	SDGs推進プラットフォーム会議
事業協力機関	ユニバーサル就労支援センター（UWC）



事業実施体制：2022～2023年度

事業主体	一般社団法人スナフキン・アンサンブル
連携協議会	SDGs推進プラットフォーム会議
連携事業	ユニバーサル就労支援センター（UWC）

当初は協力機関として事業に参加。その後、日経BPより事業を引き継ぎ、引き続きSDGs推進PF会議と連携しながら事業を実施。

事業実施の背景③

就労支援における「第三の居場所」の効果

【求職する手前の段階】

社会参加の第一歩、人間関係の不安緩和、就労への意欲醸成など

【求職中の段階】

求人情報や職場見学・体験の情報交換、相談や励まし合いなど

【就労継続中の段階】

仕事の愚痴をこぼせる場、職場の人間関係の相談など

- ・ 家庭と職場以外の第三の居場所があることで様々な効果が期待できる。
- ・ 一般的には学生時代の友人や趣味の仲間などが居場所になるが、就労支援を必要とする方々にはそういった人間関係が無いことが多い。
- ・ センター内だけで多様な居場所の確保は難しい。

昨年度までの成果

- ・ 地域との連携により、職場以外の多様な居場所（学びの場）を創る。
- ・ 社会に参加することの意味を学び続けられる持続的な仕組みを創る。

【地域イベントでのボランティア】
三陸花火の準備作業への参加者を花火大会に招待していただく取組を開始。11名が作業に参加。

【市街地店舗等でのボランティア】
惣菜店の清掃作業を手伝って惣菜を持ち帰れる取組を不定期実施。延べ6名が参加し、1名は定期継続に。

【グループワークのサークル化】
音楽・謎解き・手芸の3つのサークルの参加希望者を把握。希望者同士での活動内容の検討機会を創出。

【ICTツールを活用した学び合い】
在宅ワーカー同士がオンラインで交流し学び合う機会を創出。延べ5名参加。

地域イベントでのボランティア①

【実施内容】

- ・ 昨年に続き、三陸花火大会および三陸花火競技大会の事前準備をUWC利用者等が手伝い、大会当日に無料招待される取組を実施。

大会名	開催日	準備作業参加	大会当日参加
三陸花火大会2023	4月30日	8回：延べ30名	6名（家族含む）
三陸花火競技大会2023	10月8日	10回：延べ45名	11名（家族含む）



地域イベントでのボランティア②

【進展・成果】

- ・障がい者就業・生活支援センターとも連携し、UWC利用者以外にもプログラムに参加した。
- ・事前にオリエンテーションを実施し、実行委員より大会開催の意義や経緯などについて参加者に説明していただく機会を設けた。
- ・プログラムに3回以上参加した人が14名おり、継続的に活動に加われる「居場所」としての機能が生まれてきている。
- ・プログラム後に、参加者の社会参加を活性化させる効果があった。

例) 就労への意欲が芽生え就職：2名

休職状態から復帰：1名、運転免許の取得を検討：1名



市街地店舗等でのボランティア

【実施内容】

- ・ 昨年引き続き、橋勝商店「おかず屋 和笑輪」の手伝いをUWC利用者が手伝い、惣菜を持ち帰れる取組を継続。
- ・ 本丸ストリートまつり、および市の産業まつりにて、UWC利用者が出店の運営を手伝い昼食をご馳走していただく取組を実施。



【進展・成果】

- ・ 本来は就労を見据えたプログラムではなかったが、昨年より継続参加していた1名が、橋勝商店での雇用契約につながった。
- ・ 産業まつり等での取組は、試験的な実施で参加者は1名に留まったが、出店企業側にもメリットがあることが確認できた。

グループワークのサークル活動化

【実施内容】

- ・ 音楽サークルの活動を開始し、延べ11名が演奏練習に参加。きらりんキッズのイベントでの演奏機会を得て、1名が参加。



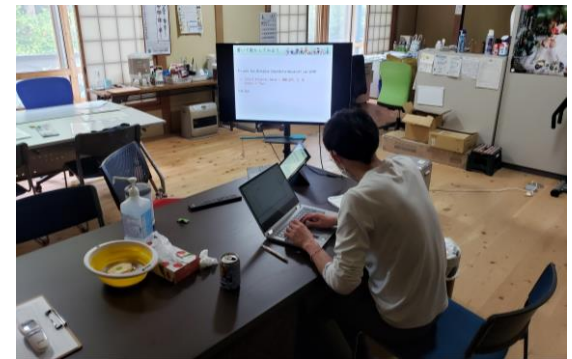
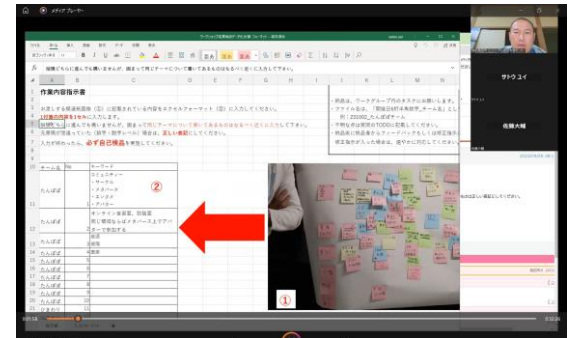
【進展・成果】

- ・ 音楽サークルの活動は、3回以上の継続参加が3名。精神疾患や対人不安を抱える参加者が多いものの、体調が安定しているときであれば積極的・継続的に参加できることが分かった。
- ・ 1名のみでの参加ではあったものの、イベントでの演奏機会を得られたことで、今後の活動展開への足掛かりが得られた。

I C Tツールを活用した学び合い

【実施内容】

- ・ 昨年に続き、サポート付き在宅ワークの取組と連携し、在宅ワークにチャレンジするかた同士が交流し学び合う機会を創出。オンラインミーティングに延べ4名が参加。
- ・ 1名の希望者に対し、対面でのプログラミング講座を実施。



【進展・成果】

- ・ プログラム参加者からの提案で、業務が開始になる前からオンライン打合せを実施し、事前に提供されたマニュアルの読み合わせを行った。より早期に不明点などを洗い出せた。
- ・ LINEのオープンチャット機能を活用し、プログラム参加者同士がいつでも質疑や情報交換をし合える環境をつくることができた。

現状の課題と今後の展望

三陸花火

- 支援学校等にも参加を呼び掛けたいが、学校からは内容や日程が分かるチラシ等が欲しいとの要望あり。現状は直前に作業内容や日程を決めており、事前周知が難しい。要検討。
- 次回大会からは、実行委員の打合せにも参加させていただく方向で調整中。雑務の手伝いだけでなく、参加者がそれぞれの得意分野を活かして運営に深く関われる形を模索する。

市街地店舗ボランティア

- 産業まつりは、地域内の多様な企業・団体と関係をつくり、障害者等が社会活動を体験する場として有効と思われる。
- 来年に向け、当事業内での産業まつりへの関わりかたを検討し、必要に応じ関係者との調整を行う。また、他にも様々な企業や店舗等が参加するイベントがあれば、同様の取組の可能性を模索する。

現状の課題と今後の展望

サークル活動

- 音楽サークルは楽器経験者と初心者がそれぞれ別々に少人数で活動しており、交流や相互作用が少ない。また参加者は精神面に課題があるかたが多く、ひとりが調子を崩すと活動が停止してしまう。今後はレベルを問わず一緒に活動できる仕組みをつくり、相互に補い合いながら継続的に活動できるようにする。
- 他に手芸サークルも活動開始に向け準備中。手始めに、クラフトバンドを用いた小物入れづくりのワークを近日中に実施予定。

I C T 学び合い

- 11月後半より、サポート付き在宅ワークの取組が本格化する予定。それに合わせ、在宅ワーカー同士の交流をより活発化させる。
- 在宅ワークの取組以外にも、より高度なスキル習得を希望するかた向けに、プログラミング講座やWEBサイト制作体験を計画中。